



朝一小だより

活気があふれ、心が潤い、一人一人がより良く生きる学校

Tel048-461-0052 <http://www.asakadailshou.city-asaka.ed.jp/>

学校教育目標

- ・考える子
- ・やさしい子
- ・たくましい子



朝霞市立朝霞第一小学校

令和8年3月1日

児童数 614名



大人と子供、どっちが幸せ？

校長 金子 二郎

弥生3月を迎えました。先月の天皇誕生日には、関東地方で二年ぶりに春一番が吹いたと気象庁から発表がありました。うっすら汗ばむ日が続いたかと思えば冬物のコートに袖を通しながら慌てて手袋とマフラーを探す朝に逆戻りと、三寒四温の寒暖差に悩まされます。まだまだインフルエンザも気になるころですが、それでも校庭の梅の花は鮮やかに咲きほこり、春が近くに来ていると私たちを励ましてく



れているようです。保護者や地域の実様におかれましては健やかに過ごしてはいかがでしょうか。早いもので、去年4月に新入生を迎え令和7年度がスタートしてから一年が経とうとしています。



さて、昨年放映されたテレビドラマ「続・続・最後から二番目の恋」の中で、小泉今日子さんが演じる主人公、吉野千明の次のような台詞が出てきます。「寂しくない大人なんていない。大人は自分で人生を選ぶ機会がどんどんなくなっていくのを知っているから。大人から見ると、子供や若者には無限大の可能性があるように思

ったりするけど、それは嘘だ。子供には子供の事情や状況や不自由がたくさんあって、いつか大人になれば自分で決められると思っているわけで。でも大人になればなるほど暮らしや責任やら諦めやら、いろんなことで選択の幅はどんどん狭まっていってしまう。変化を求めるのであれ、今を守ろうとするのであれ、大事なのはそれが自分の選択であることなんだ。どうかこの世界に生きるすべての人が、人生の選択を自分で行えますように。なんだか立候補演説みたいだけど、59歳の私はそう願う。さて、私はこの先、何を選択するのだろうか。」大人は大人で、「小さい頃はよかったな」とノスタルジックに子供を羨ま



しがることが少なくありません。逆に、何かと束縛されることの多い子供からすると、「いつでも自分で好きなことができる大人はいいな」と劣等感を抱くことも多いのかもしれませんが。現実には大人も子供も、制約がある中でもがきながら「次善の策」を積み重ねて何とか生きているのが普通なのかもしれません。ささやかながらもその積み重ねが確かな幸せとなります。毎日、子供とともに時間を過ごす中では気付

きにくいところもありますが、体が大きくなるだけでなく心の面も含め、子供たちの成長には目を見張るものがあります。自覚の有無にかかわらず、その成長が子供自身の選択に自信をもたらします。加えて、周りの大人が子供にとって「私もあんな大人になりたい」と思えるようなロールモデルであればあるほど、成長の幅はさらに広がります。子供が幸せになるためには、まず大人が幸せな毎日を送ることが大切なのだと思います。令和7年度も最後のひと月となりました。大人も子供も顔を上げて胸を張り希望をもって新しい春を迎えることができるよう、充実した時を過ごすことができればと願ってやみません。



私達が成功してきたのは大きな問題を解決する方法を見つけ出したからではない。小さな問題をきちんと片付けてきたからだ (ウォーレン・バフェット)